



いちょなみき

No. 62

妹島和世 × 西沢立衛 国際視点でキャンパスづくり

学長特別補佐

SANAA



- 卒業生その人に聞く 山崎 夕貴さん フジテレビアナウンサー
- 研究室訪問 李 禎之 岡山大学大学院社会文化科学研究科准教授
- 東日本大震災 一被災地支援のために… 今、そしてこれから岡山大にできること
- News & Topics 大学の動き
- 「岡山大学ホームカミングデイ 2011」開催案内



国際視点で
キャンパスづくり

大地域に誇れる
大学に

妹島和世 × 西沢立衛

学長特別補佐 SANAA

妹島▼例えば、玄関は正面だけという
 キャンパスにまで広がっていきよう
 中の活動がよく感じられ、周辺の
 すんなり入っていき、入らなくて
 をつくりたいと思っている。人々が
 調和していきような、開かれたもの
 かも、よく使われて、周辺とうまく
 大事業だ。その記念性は尊重しなが
 西沢▼建物を建てるというのは特別な
 新ホールの建設などに携わってい
 年に向けて、昨年から市民開放型の
 2020年の医学部創立150周年

妹島▼学内に魅力的な場所や、交流で
 きる空間があれば、誰もが行きやす
 い、親しみの持てる場所になると思
 う。そういうものを考えてみたい。



▲新ホールの内観図 (SANAA 提供)

環境との関わり、重視したキャンパス計画に



ホール断面図



妹島▼例えば、玄関は正面だけという
 キャンパスにまで広がっていきよう
 中の活動がよく感じられ、周辺の
 すんなり入っていき、入らなくて
 をつくりたいと思っている。人々が
 調和していきような、開かれたもの
 かも、よく使われて、周辺とうまく
 大事業だ。その記念性は尊重しなが
 西沢▼建物を建てるというのは特別な
 新ホールの建設などに携わってい
 年に向けて、昨年から市民開放型の
 2020年の医学部創立150周年

妹島▼学内に魅力的な場所や、交流で
 きる空間があれば、誰もが行きやす
 い、親しみの持てる場所になると思
 う。そういうものを考えてみたい。

建築家ユニット「SANAA (サナア)」として、世界を舞台に活躍する妹島和世氏と西沢立衛氏が6月1日付けで、学長特別補佐に就任した。鹿田地区の耐震化工事へのアドバイスをきっかけに始まった岡山大学との関わりが、同地区への市民開放型の新ホール設計、津島地区を含む全学のキャンパス整備における助言へとつながった。国際的な視点を生かし、学長を補佐することとなった2氏。森田潔学長の掲げる「美しいキャンパス」づくりに向けた取り組みとは。本格的なキャンパス計画の着手を前に、これからの意気込みを聞いた。



学長特別補佐として、大学全体の
 キャンパスづくりにアドバイスを
 する。魅力づくりのポイント。
 西沢▼東京を中心に、多くの大学が市
 街地にキャンパスを求めているが、
 獲得できずにいる中、これだけ街中
 にキャンパスがあるのはすごい財産
 だと思う。
 キャンパスづくりは、まだ始めた
 ばかり。ただ、全部作り直すとい
 うことではない。出合いや何かをや
 つてみたいというチャンスを増やして
 いくような場作りをしたいと思っ
 ている。
 津島地区と鹿田地区の両方がある
 ことで、大学としての魅力は増すと
 考えている。この二つが連続しあ
 うことでさらに魅力になっていけ
 る、と思う。

独立性活かしつつ、シェアできる空間を



◀鹿田地区に建設が計画されている新ホールの模型

Interviewer
 聞き手
 編集長▼後藤 邦彰 (工学部教授)
 副編集長▼林 創 (教育学部准教授)

妹島 和世 (せじま・かずよ)
 1956年 茨城県生まれ
 1981年 日本女子大大学院修了
 伊東豊雄建築設計事務所入所
 1987年 妹島和世建築設計事務所設立
 現在 岡山大学長特別補佐
 日本女子大客員教授
 多摩美術大客員教授
 金沢美術工芸大客員教授

西沢 立衛 (にしざわ・りゅうえ)
 1966年 神奈川県生まれ
 1990年 横浜国立大大学院修了
 妹島和世建築設計事務所入所
 1997年 西沢立衛建築設計事務所設立
 現在 岡山大学長特別補佐
 横浜国立大大学院教授

SANAA (サナア)
 Sejima and Nishizawa and Associates
 妹島和世と西沢立衛が1995年に設立した建築家ユニット。代表作に「金沢21世紀美術館」(金沢市、2004年)「トレード美術館ガラスパビリオン」(米国、2006年)「海の駅なおしま」(香川県直島町、2006年)、「ニュー・ミュージアム・オブ・コンテンポラリー・アート」(ニューヨーク/米国、2007年)「ROLEX ラーニングセンター」(スイス、2010年)などがある。現在、2012年開館予定の「ルーブル・ランス」(仏)などのプロジェクトが進行中。2010年には建築界のノーベル賞と称される米プリツカー賞を受賞した。



金沢 21世紀美術館 ©SANAA



ROLEX ラーニングセンター ©SANAA



トレード美術館ガラスパビリオン ©SANAA



ルーブル・ランス Francis Bocquet, SANAA © SANAA / Imrey Culbert / Catherine Mosbach

グラウンドデザイン ともに知恵絞る

学長 森田 潔



大学の本质である教育と研究を充実させるにも、環境整備は欠かせない。理想とする美しく気品あるキャンパスづくりを進めていく。計画は10年以上のスパンになると思うが、学長特別補佐のお二人は国際経験も豊富であり、ご意見を参考にしながら、グラウンドデザインをつくっていききたい。津島、鹿田地区の整備はもちろん、「街中キャンパス」づくりも手がけ、市民にもオープンなキャンパスにしたい。

皆さんに誇りに思ってもらえる大学を目指した取り組みは緒に就いたばかり。お二人には大学のさらなる発展のため、ご尽力いただきたい。

妹島▼いろんな専門の人が同じエリアにいるというのが、大学の特徴でもある。各建物の独立性もすごく重要だけど、どこかで重なり合う場所があった方が、互いに学び合うきっかけにもなる。それぞれが独立しているながら、一緒にシェアする部分もあつたり、ということもありうるのではないか。

—学長は地域に開かれた大学を目標にしている。

妹島▼地域の人にとって「どうぞ」と言っても、閉じたものだと近づきにくい。だけど、人を招いているような建物だと、人々は入りやすくなる。そこで学生と会うこともできるし、話も始まる。

西沢▼建物の開放感というのは、建物を利用しない人々にとっても意味があるものだ。利用しなくても、町の人が岡山大学に親しみを持った、誇りを持っているという事は、非常に重要なことで、それは大学が精神的に開かれている証にもなる。岡大を卒業していなくても大学を愛する。

町の公共物というものは本来、駅にしても公園にしても大学にしても、そうあるべきだと思う。その意味でも、大学が地域に根ざすことの重要さは疑いようのないこと。どれ

最後に二人がイメージする大学像と意気込みを教えてください。

西沢▼学校というのは、人間が非常に創造的になるところと思う。また、新しい時代を目指す創造というのか、現代的な創造と変化が絶えず起こる場でもある。それが地域の財産になっていくのは素晴らしいことだと思う。

妹島▼岡山大学のように、キャンパス全体の調和を考え、またキャンパスの中だけでなく、地域全体との連携を考えるとするのはすばらしいと思う。難しいことかもしれないし、時間もかかるかもしれないが、いろいろな可能性が考えられる。お役に立てるところがあれば是非私達もがんばっていききたい。

大学は創造の場 地域の財産に

時間を作りリフレッシュ

朝の情報番組「めざましテレビ」の出演がある日の起床は午前3時。5時にはスタジオ入りします。曜日によって番組収録があったり、ロケに出たりでスケジュールが全然違います。先輩たちの仕事ぶりを見ていて、プライベートは全くないのではと覚悟していましたが、意外と時間は作ろうと思えば作れます。家にいるよりは、なるべく友達と会ったり同期とご飯に行ったりしてリフレッシュしています。

会話の流れを大切に

取材は、めざましテレビや映画コーナーなどの芸能関係が中心です。日々、いろいろな人に会い、様々な世界を見るのが楽しいです。思わぬところで刺激を受けることも多いですね。取材を通じ、どんどん興味がわいてきます。一番緊張するのはインタビューのとき。初めてのときは最悪でした。俳優さんに対して質問案を用意していたのですが、緊張で一問一答みたいになってしまい、自然な会話にはならず…。それから、相手をリラックスさせようと思えば、質問案は「お守り」程度で、会話の流れを大切にしています。



生放送中に残り時間を間違えて話している途中で切れてしまったり、食べ物のレポートでのごに詰まらせてレポートできないなど、まだまだ失敗だらけ。もっと細かいことも気にしてしまうタイプだったのですが、「反省はしなきゃいけないけど、落ち込んじゃダメ」と先輩からアドバイスを受けたのをきっかけに、常に前向きでいるよう努めています。

テレビの力を実感

カメラの前では私らしくいることを心がけています。入社したての頃は「私の個性ってどうやって出せばいいんだろう」と考えていました。なかなか答えが見つからないでいた時、社内研修で「自分に正直でいることが個性」と教わり、ハツとしました。個性をどうやって出すか考えている時点で「作り物であって私ではなかったのです。それからは「自分が楽

しもう」と思えるようになりました。周りのみんなも「山崎はそのままがいいよ」と言ってくれています。

アナウンサーは「伝えたいこと」と、視聴者の間に立つ人だと思っています。バラエティーでいえば面白さを、報道ではニュースを視聴者に届けるお手伝いをする役目。テレビを楽しんでもらうための架け橋のような存在です。そんなお手伝いの場に立てることは本当に幸せです。7月に放送された「27時間テレビ」では、みんなを笑顔にできるテレビの力の大きさを実感し、初めて感動で泣いてしまいました。今は目の前のことだけに必死ですが、どんな現場にも対応できるように、いつか27時間テレビの進行役のポジションにつくのが夢です。

画面を通していい影響を

こちらでは岡大出身は珍しく、イジられることもしばしば。でも、最近はフジテレビのアナウンストレーニングを受けに岡大の学生が来てくれるようになったと聞き、嬉しくなりました。私が画面を通して何かいい影響を与えられ、いろいろな事に挑戦する岡大生が増えてくれれば幸せだなと思っています。

カメラの前では私らしく

卒業生
その人に聞く

山崎 夕貴 YAMASAKI Yuki

フジテレビジョン編成制作局

アナウンス室アナウンサー × 岡山大学経済学部卒

岡山大学出身者として初めて在京キー局にアナウンサーとして入社。

1年目で、情報番組のキャスターに抜擢される。

2011年4月からは「めざましテレビ」(木・金曜日)のレギュラーに。

「めざましどようび」も担当。

やまさき ゆき (24歳)

▶1987(昭和62)年生まれ。岡山県倉敷市出身

▶2007(平成19)年 第25代倉敷小町(親善大使)を務める

▶2010(平成22)年 岡山大学経済学部卒

▶2010(平成22)年 フジテレビジョン入社

研究室
訪問

「高度な知の創成と的確な知の継承」——。岡山大学の理念のもとに教育・研究を展開する個性あふれる教員たち。研究室を訪ねる。

2回目に登場するのは、社会文化科学研究科(法)の李禎之准教授。専門は国際法で、主に国際司法裁判所における訴訟手続きを研究テーマとする。グローバル化の時代において、注目度が高まっている国際法。だが、その意義や役割は、時代とともに変わりつつあるという。

国際法で世界をみる

持ち、研究を始めた。最近では、判決前に、裁判所が出す仮保全措置命令(暫定措置命令)にも関心がある」と話す。

国際裁判は判決まで数年以上かかるのが一般的。中には10年以上を要するケースもある。そうした状況に鑑み、判決前に出される暫定措置命令は、回復不能の損害発生を防ぐことが目的だ。「1990年代から人命を守る観点から、暫定措置命令が積極的に使われるようになってきている」。最近では、7月にタイとカンボジアの国境紛争をめぐり、国際司法裁判所が両国に対し、武力衝突の続く地域から軍を撤退させるよう命じる暫定措置を出した事例が記憶に新しい。

世界の舞台で勝負

国際法に興味を持つきっかけは、自身の出生にあるという。「在日3世として生まれ、自分の存在について、もっと知りたかった時に出会ったのが国際法だった。自分が日本と韓国という二つの国家に挟まっていた存在だったがゆえに、国家を超えた論理にひかれたのかもしれない」。弁護士を目指

して神戸大学法学部に入

学したものの、気付くと研究者の道に。2007年には、神戸大大学院に提出した博士論文を基に著書「国際裁判の動態」(信山社出版)を出版。国際司法裁判所における訴訟手続きの実証的な分析を通し、国際裁判の過程を理論的かつ、実践的にまとめた良質な文献として、高い評価を受けている。

「国際法はもともとヨーロッパで生まれ育ったもの。それを使うだけでなく、日本発で自身を改善していくことに貢献したい」。国際学会へ積極的に参加し、世界各国の研究者らと議論を戦わせ、研さんを積む。「グローバル化が進み、日本の中だけで完結できる社会ではなくなっている。世界に出て勝負することも大切。学生たちにも国際舞台で勝負するチャンスを与えたい」



2007年に出版した著書「国際裁判の動態」。国際司法裁判所における訴訟手続きについてまとめた研究の集大成だ

「国際法ってロジックですよ」。そう語る李准教授は実に楽しそうだ。「国同士の紛争を話し合いで解決しようとするのが国際法。法の理論だけでなく、その背景にある政治、文化なども踏まえて考える必要がある。奥が深く、興味深い。学問としての魅力がそこにはある」

訴訟手続き分析

李准教授が研究テーマとする国際司法裁判所は、この国際法に従い、国家間の紛争などを解決する国際連合(国連)の主要な司法機関。オランダ・ハーグにあり、15人の裁判官で構成されている。「そもそもは本案訴訟手続き(紛争を解決するための判決に至る手続き)に興味を

することができるとも、海外旅行に行けるのも、国際法のおかげだ。

「在日3世として生まれ、自分の存在について、もっと知りたかった時に出会ったのが国際法だった。自分が日本と韓国という二つの国家に挟まっていた存在だったがゆえに、国家を超えた論理にひかれたのかもしれない」。弁護士を目指



▲足繁く通ったというオランダ・ハーグにある国際司法裁判所。友人と



◀留学先のライデン大学の校舎。人道法の講義を受けた教室はかつて犯罪者を収容する監獄だったという

- LEE Yoshiyuki (36歳)
- ▶1974(昭和49)年 兵庫県姫路市生まれ
 - ▶1997(平成9)年 神戸大学法学部法律学科卒
 - ▶1999(平成11)年 神戸大学大学院法学研究科博士前期課程修了
 - ▶2001(平成13)年 蘭・ライデン大学大学院修了
 - ▶2003(平成15)年 日本学術振興会特別研究員(PD)
 - ▶2004(平成16)年 神戸大学大学院法学研究科博士後期課程修了
 - ▶2005(平成17)年 県立長崎シーボルト大学(現・長崎県立大学)国際情報学部講師
 - ▶2008(平成20)年 同学部准教授
 - ▶2010(平成22)年 岡山大学大学院社会文化科学研究科准教授

李 禎之

社会文化科学研究科 准教授

東日本大震災

被災地支援のために… 今、そしてこれから岡山大にできること

東日本大震災は3月11日の発生から半年あまりが経った。巨大な揺れと沿岸部を襲った未曾有の津波は1万5千人以上の命を奪い、4000人以上が現在も行方不明のまま。被災地では復興の歩みが始まったものの、東京電力福島第一原発事故は収束せず、今なお多くの被災者たちが、不自由な暮らしを余儀なくされている。「自分たちにできることは何か」「岡山から支援を続けたい」。さまざまな思いを胸に、支援活動を続ける学生や教職員の取り組みを紹介する。

支援プロジェクト合同シンポジウム開催

東日本大震災の被災地支援に取り組む学生や教職員らによる合同シンポジウムが8月27日、津島地区で開かれた。3団体の代表者が活動を報告し、約30人が今後の支援の在り方について話し合った。

報告したのは、岡山県内の高校などから寄せられたのこぎりや金づちなど約1850点を宮城、岩手、福島県の大工や一般の人たちに届けた「とんかちプロジェクト」(代表・山本和史教育学研究科准教授)▽被災地でボランティア活動した学生らによる報告会を開いたり、福島



▲今後の支援の在り方について話し合ったシンポジウム

県の子どものための合宿受け入れなどを行った「おかやまバトン」(代表・工学部3年佐々木康裕さん)▽インターネットを利用し、必要な物資を必要の人に送っている「ふんばろう東日本支援プロジェクト@岡山」(代表・大浦まり子保健学研究科助教)の3団体。

7月上旬に4日間、被災地入りした山本准教授は「農業や漁業をしてもできない人が大勢いた」と振り返り、佐々木さんは「福島の子どもたちは思っていたよりずっと強かった。これから先も頑張っていくてくれると思う」と話した。ふんばろうプロジェクトの城道治さんは「東北へ行くのは難しいが、ホームページを利用し、1人でも多くの人に物資を送ってほしい」と訴えた。「未来を紡ぐ被災者支援」と題し、3団体のメンバーらが討論。現在の支援の課題などを踏まえ、「現地のニーズを把握する結びつきが求められる」「被災者の心の支援が必要」「もっと多くの人に関心を持ち続けてもらいたい」といった意見が出た。

学生と職員の有志約10人でつくる「おかやまバトン」は8月5〜12日、

東日本大震災と東京電力福島第一原発事故の影響で、不自由な生活を送る福島市の子どもたちを岡山に招待した。

合宿地を探していた日本舞踊と三味線教室に通う子どもたち21人と指導者4人が来岡。宿泊先の岡山市内の寺で毎朝、舞踊や三味線を練習しながら、夏祭り「うらじゃおどり」に参加したり、海水浴を楽しみなど夏休みの思い出を作った。

福島県の民謡に合わせて舞や三味線演奏を披露し、集まった児童や地域住民ら約400人から大きな拍手を受けた。最後は全員で「妹尾音頭」と「うらじゃ」を踊り、交流を深めた。子どもたちは「岡山でのびのびと練習できた」「岡山で元気をもらった」などと笑顔を見せていた。



▲合宿の成果を披露する福島市の子どもたち = 8月11日、岡山市立妹尾小学校

資源植物科学研究所(倉敷市中央)は東日本大震災で津波の被害を受けた農地の復興支援プロジェクトに取り組むための予算を平成24年度概算要求に提出した。研究所が保存するオオムギ約1万4千種の中から耐塩、耐湿性に優れた品種を選び、被災地の水田で栽培し、農地の修復を目指す。

一般的に塩分濃度の高い土壌では根から養分吸収が十分できず、植物は枯死してしまう。農林水産省の推計では今回の津波で、岩手、宮城、福島県などで約2万3600㌔の農地に海水が流入、冠水。このうち、被害を受けた水田は千葉県以北の6県で計2万150㌔とされる。従来品種では農業継続が困難なため、世界の四大拠点の一つとされる研究所のオオムギ遺伝資源のコレクションを活用する。

研究所は7千を超えるオオムギ品種を塩水処理によって選抜し、塩害に強い外国産のオオムギ数種類をすでに選定。北関東原産の優良種と交雑し、遺伝子解析によって現地で栽培しやすい新品種の開発を行う。さらに湿害に強い品種の交雑も進めており、2014年ごろまでには、現地で実証栽培を始める計画。

栽培地として想定するのは宮城県と福島県。同研究所は「イネと大麦の二毛作が実現すれば、ダメージを受けた農家の収入確保にもつながる。隣接する栃木、茨城、群馬県などはオオムギの一大産地でもあり、東北南部でも栽培は可能だろう」という。9月には宮城県の復興担当者とともに現地調査を予定している。

また、東京電力福島第一原発事故の影響を受けた放射性物質による土壌汚染に関して、研究所が保存しているオオムギ、イネのほか1万7千種の野生植物の中から、放射性物質の種子や葉などへの集積率が異なる植物種を特定し、放射性物質の植物による吸収や土壌汚染の除去についての情報を得る計画もある。

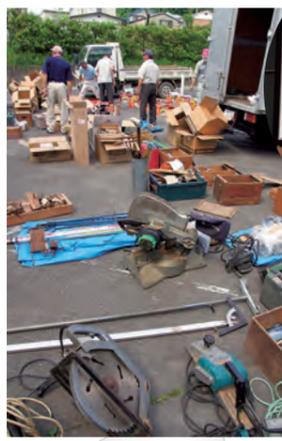
附属大麦・野生植物資源研究センター長の佐藤和広教授は「作物を栽培し農業を続けることができる環境を提供することが重要。農家に希望を与えるような成果を出したい」としている。



資源植物科学研究所が「保存・研究するオオムギ」の種子を手にする佐藤教授



▲活動報告を行うとんかちプロジェクト代表の山本准教授



▲とんかちプロジェクトが岩手県山田町で配った工具類 = 7月10日



▲宮城県南三陸町でふんばろうメンバーらは支援物資の家電配布に参加した = 8月1日

岡山大学のニュース&トピックスおよび最新情報は岡山大学のホームページからご覧いただけます。

<http://www.okayama-u.ac.jp>

6 June

4日 「教員の資質向上に寄与する『大学と学校・教育委員会の協働』の実現」事業キックオフ・ミーティングを開催

9日 外部資金獲得者への学長表彰状の授与式を開催

21日 定例記者発表を開催

25日 公開シンポジウム「震災から学ぶエネルギー対策」を開催

27日 次世代型環境技術研究でベネッセと協定



本学とベネッセホールディングスは太陽エネルギーの利活用の高効率化を追求する次世代型環境技術研究について協定を締結した。安価で高性能な次世代型太陽電池の開発につながる研究に連携して取り組み、2013年度までの実用化を目指す。

7 July

6日 岡山大学七夕祭を開催

7日 ガーナの教育関係者が本学で研修を開始



ガーナ共和国の小学校教員ら教育省関係者12人が、本学教員の指導のもと理数科教育を学ぶ研修が始まった。独立行政法人国際協力機構(JICA)の国別研修(Country Focused Training Program)の一。期間は約2カ月。

7日 岡山大学 ECO ☆ ナイトを開催

13日 環境マネジメントについて学ぶ「サステイナブル・セミナー」を開催

7 August

13日 発掘成果展「農耕のはじまりを考える 考古学と自然科学の融合、津島岡大遺跡での実践」を開催



17日 池田家文庫子ども向け岡山後楽園発見ワークショップを開催

21日 定例記者発表を開催

23日 大阪で「卒業生フオーアツセミナー」を開催

29日 「第6回高校生・大学院生による研究紹介と交流の会」を開催

細胞生物学者でハーバード大学医学部のビヨン・レイノールセン教授に本学の教育・研究への貢献が顕著な研究者を顕彰する「名誉博士」の称号を授与した。医学部生や地元高校生らが参加した「岡大医で実現、『もう一つのハーバード白熱教室』と題した講演会」もあり、参加者はオルセン教授と議論を深めた。

8 August

5・6日 オープンキャンパスを開催



津島、鹿田両地区で開き、高校生ら約1万3千人が足を運んだ。全11学部とマッチングプログラムコースが、それぞれプログラムを企画。高校生は研究室訪問や模擬授業などを通して、「岡大ライフ」を体験した。

8 September

10日 教職員の子どもたちを招いた「家族の日」イベントを開催



教職員と家族の計18組53人が参加。津島地区では、旧事務局庁舎でオリエンテーションの後、学長室で森田潔学長と名刺交換し、インタビュアーや記念撮影などを行った。鹿田地区では、腹腔鏡シミュレーターを使った胆のう切除手術に挑戦するなど、「医療現場」を体験した。家族の職場も訪れ、実際に仕事する姿を見学した。

17日 オルセン・ハーバード大学教授に名誉博士号を授与し、講演会を開催

細胞生物学者でハーバード大学医学部のビヨン・レイノールセン教授に本学の教育・研究への貢献が顕著な研究者を顕彰する「名誉博士」の称号を授与した。医学部生や地元高校生らが参加した「岡大医で実現、『もう一つのハーバード白熱教室』と題した講演会」もあり、参加者はオルセン教授と議論を深めた。

8 September

31日 全日本学生フォーミュラ大会に出場するレーシングカーを学内関係者らに披露



工学部の学生13人で構成する「岡山大学フォーミュラプロジェクト」は、「全日本学生フォーミュラ大会」(9月5・9日・静岡県小笠山総合運動公園)に出場するレーシングカーをお披露目し、津島地区でデモ走行を行った。7回目の参加となる今回は、「加速・旋回性能の向上」をコンセプトにエンジンやサスペンションを改良した。

9 September

8日 新司法試験合格者発表

本学法科大学院は73人が受験し、過去最多の23人が合格した。合格率は前年比16・4ポイント増の31・5%で全国12位(全国合格率23・5%)だった。

研究・臨床成果

■大学院自然科学研究科(理)の中越英樹准教授(バイオサイエンス専攻)らのグループは、色認識に関わるオプシントタンパク質の発現制御機構を解明した。生物種を超えて保存された普遍的なメカニズムとして注目される。米雑誌セルに掲載。(6月・定例記者発表)

■大学院社会文化科学研究科(法)の中富公一教授(憲法学)は、憲法学的観点からいじめを定義した。憲法13条の保障する「個人として尊重される」権利を侵害し、相手の人格を否定しようとする行為とし、この定義によっていじめがなせつらいのかを明らかにした。憲法理論研究会叢書2011年版に掲載。(7月・定例記者発表)

■大学院環境学研究科の河村雄行教授(ナノ環境学)と東京工業大、お茶の水女子大、高エネルギー加速器研究機構の研究チームは、地震を起こさずに滑り続けるクリップ断層の要因である鉱物表面が、吸着水によって潤滑するメカニズムを世界で初めて解明した。米化学会誌オンライン版に掲載。(8月・臨時記者発表)

Homecoming Day 2011 岡山大学ホームカミングデー

一般の皆様、お気軽にお越しください。

2011.10/22(土)



岡大で「絆」深めませんか。岡山大学は創立62周年の開学記念日にあたる10月22日、津島地区の創立五十周年記念館をメイン会場に「ホームカミングデー2011」を開催します。ホームカミングデーは、同窓生が母校に集い、再会した旧友や恩師と懐かしい時間を過ごしなが、大学の近況に触れ、在学生や地域の方々とも絆を深めていただくイベントです。

歓迎式典

■時間/10:00～(受付:9:30～)
ウエルカムコンサート
 10:20～ グリークラブ
 13:30～ ギターマンドリンクラブ
 14:10～ JAZZ研究会
 ■場所/創立五十周年記念館 金光ホール

お茶席

300 服限定 **無料**
 ■時間/11:00～
 ■場所/創立五十周年記念館 交流サロン

岡大史ミニ探訪展

岡大創設期から開学期までの貴重な写真を展示しています。
 ■場所/創立五十周年記念館 会議室(2階)

ホームカミングデイ市

■時間/10:00～12:00【農学部企画】
 新鮮な野菜や果物の販売
 (附属山陽園フィールド科学センター)
 ■時間/9:30～16:00 岡大グッズ販売(岡大学生協)
 ■場所/メイン会場前

キャンパスツアー

大学探索ツアー ▶先着60名
 ■時間/11:00～12:00 メイン会場前集合
 13:00～14:00 //
 現役学生が、津島キャンパス内を歩いて案内します。
 【申込先】総務・企画部企画・広報課
 Tel: 086-251-8415・8416

半田山森林散策ツアー

▶先着20名【農学部企画】
 ■時間/13:00～16:00 農学部1号館玄関前集合
 【ツアー詳細の問い合わせ先】
 自然系研究科等農学部事務局 Tel: 086-251-8273
 【申込先】総務・企画部企画・広報課
 Tel: 086-251-8415・8416

一般公開

中央図書館 ■時間/10:00～16:00
 情報展示室 ■時間/10:00～16:00

池田家文庫絵画展

【附属図書館】
 ■開催/10月22日(土)～11月6日(日)
 ■場所/岡山市デジタルミュージアム

▶メイン会場：創立五十周年記念館

全学同窓会企画

全学同窓会総会

■時間/11:00～
 ■場所/創立五十周年記念館 金光ホール

ウエルカムパーティー

■時間/12:00～
 ■場所/学生会館 ▶参加費 2,000円
 【申込先】総務・企画部企画・広報課
 Tel: 086-251-8415・8416

要・事前申込：期間10/12まで

福引き抽選会

■時間/15:00～
 ■場所/創立五十周年記念館 金光ホール

各局局等

- 法学部▶講演会/懇親会
- 経済学部▶講演会/懇親会
- 理学部▶全体説明会/学科別イベント
- 歯学部▶歯学部キャンパスツアー(11月13日開催)
- 工学部▶中学生向け工学実験/体験講義/研究室見学
- 環境理工学部▶卒業生を囲む会
- 農学部▶半田山森林散策ツアー/ホームカミングデー市
- 資源植物科学研究所
▶パネル展示/大学院進学相談会
- 入試相談会
- 留学生同窓会

【問い合わせ先】 Tel: 086-251-8415・8416

<http://www.okayama-u.ac.jp/tp/alumni/homecoming2011.html>

ホームカミングデー2011

ナカシマメディカル株式会社



ひざや股関節の痛み、変形、リウマチなど関節疾患の治療に使われる人工関節。手術件数は年々増加しており、約10年間でおよそ2倍に増えたというデータもある。海外メーカーが8割以上を占める人工関節市場で、躍進するのが日本人の骨格にあった製品づくりに徹するナカシマメディカル(岡山市東区上道北方)だ。

人工関節とひと言にいても、種類は多彩。ひざ、股関節に、肩、ひじ、指…。さらに使用する医師によって形状は異なり、患者の体型に合わせてサイズも変わる。例えば、人工股関節だけでも承認を受けた製品は26種類もある。

ナカシマメディカルは船舶用プロペラで世界トップのシェアを持つナカシマプロペラ(同所)から分社化された会社。医療分野への参入は、プロペラ工場を見学した医師が曲面加工の技術を見て、「人工関節に応用できないか」と

人工関節にプロペラ技術活かす

アドバイスしたのがきっかけだった。1987年にプロペラ工場の片隅で始まった人工関節づくりは、プロペラ製造で培った高い加工技術と開発力を活かし、現在に至っている。

そのナカシマメディカルが今、力を入れるのが、人工関節を長寿命化させる新素材の開発や患者別受注生産の実現。このプロジェクトは2008年、政府の先端医療開発特区(スーパー特区)24件のうちの1件に民間企業としては唯一、採択され、岡山大学などとの産学連携で研究・開発が進む。CTのデータなどを基に、患者一人一人に合った関節を設計するソフトウェアや人工関節置換手術を支援するロボットの開発も行っており、医療分野でのさらなる成長が期待される優良企業だ。より安全で患者さんにとって「最適」な医療を提供するため、新たな可能性を追い求めている。



人工膝関節▲



人工肘関節▶

人工股関節▲

ナカシマホールディングス株式会社

〒709-0625 岡山市東区上道北方688-1
 Phone (086) 279-5111 Fax (086) 279-3107
<http://www.nakashima.jp/>

人と社会の豊かな未来[Beyond]へ。

Nakashima Group
 ナカシマホールディングス株式会社 / ナカシマプロペラ株式会社 / ナカシマメディカル株式会社 /
 ナカシマベトナム株式会社 / 株式会社システムスナカシマ / ナカシマエンジニアリング株式会社 / 株式会社ナック